

学校図書館支援通信



172号

令和5年度 市川市教育センター

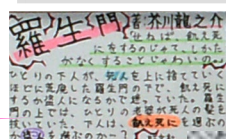
生きる力・夢や希望を育む学校図書館

昨年度は、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、学校図書館運営を行っていただきありがとうございました。今年度は、新型コロナウイルス5類移行により、少しずつ運営の幅が広がります。

市川市の学校図書館「生きる力・夢や希望を育む学校図書館」の実現に向け、「学習を支える図書館」「読書活動を支える図書館」「研究を支える図書館」の3つの機能を併せ持った図書館づくりの推進をお願いいたします。教育センターは、引き続き司書教諭及び学校司書、授業に携わる先生方の支援を行っていきます。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

第四中

読書活動の活性化はPOPから



今年度も、児童・生徒の不読率を下げるために、各学校で多くの実践がなされているところです。市川市立第四中学校では、今年度5月、例年に比べて多くの生徒が図書館に足を運ぶようになりました。それは、「POP作り」から始まったそうです。

「POP作り」は、第3学年国語科の2時間展開で行われました。

1時間目：見本をもとにPOPの説明、本の決定【図書館にて授業】

2時間目：POPの完成、掲示、鑑賞【図書館にて授業】

(※GWを挟むことで、1時間目から2時間目の期間は2週間)



体育祭練習や他の国語科の単元も進めながらの2時間でしたが、生徒たちは気持ちをうまく切り替えながらとても楽しく取り組んでいたようです。学校司書との連携を図り、授業を図書館で行ったことも、集中できた大きな要因の一つでしょう。

POPに誘われてか、本の楽しさを再認識してのことか、5月に入ってから3年生の貸し出し数は例年より大幅に伸びていました。POPを見た1年生からは「作りたい」という声上がり、意欲を掻き立てられている様子も見られるようです。

POPの用紙は、印刷用の名刺用紙です。同サイズのラミネートフィルムを活用することで、事前の準備を最小限に抑えることができ、教師はPOPの内容に集中して指導ができたとのこと。たった2時間で…と思いがちですが、授業の魅力や子どもへの影響は時間の量ではないことを、改めて感じました。



繋ぐとしゃかん

楽しいとしゃかん

タブレット授業が日常化となり活発に行っている行徳小です。タブレットは“知りたいな”という探求心の入り口、その入り口から“知りたいな”を深めて行くのが(学校)図書館だと思っています。そのために整備し、先生たちに繋ぎ、子供たちへと繋いで読書活動を行っています。

行動範囲が少し緩和された今年度、皆様の学校では、繋ぐだけでなく“楽しい”を盛り込んだ図書館活動を、図書委員会とともにどんな計画を立てていますか？

3. 本をよむことが好きですか？

● とても	319
● まあまあ	279
● あまり	66
● きらい	16



オリエンテーションでは、1年生を除く693人(回答)にアンケートを取ってみました。この数字が年度末に行う2回目のアンケートでどう変わってくるのか楽しみです。

市川市立行徳小学校 学校司書 山下郁子



課題図書作者との読書講演会
【令和4年度の取り組みより】



「鳥獣戯画」を使った外国語科との授業
【令和4年度の取り組みより】

学校図書館活用推進事業

今年度も、市川市の「学校図書館活用推進事業」を進めてまいります。市内の各学校へ実践内容や研究成果を共有し、「生きる力・夢や希望を育む学校図書館」に向けた学校図書館活用の推進を行うことを目的としております。

今年度は、**市川市立柏井小学校**を推進協力校として、学校の実態に応じた調査研究を進めていきます。

新規学校司書 紹介

今年度、新たに新規採用の学校司書7名をお迎えしました。

市川小学校、中山小学校、
国分小学校、稲荷木小学校、
大町小学校、大洲小学校、
稲越小学校へ着任しています。
よろしくお願いいたします。

『学校図書館支援通信』は、市川市教育センターホームページでもご覧いただけます。

市川市教育センター

〒272-0015 千葉県市川市鬼高1-1-4

TEL 047-320-3335 FAX 047-320-3352

<http://www.ichikawa-school.ed.jp/index.html>

